

あなたの街を結びます。
中部国際空港と
中部の空の玄関口、

中部国際空港は、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港であり、わが国における航空輸送の発展の一翼を担っています。
空港線は現在、中部国際空港に乗り入れる唯一の鉄道アクセスとして、年間約800万人の旅客輸送を取り扱っており、今後においても、増大する航空需要を背景に発展を遂げていく中部国際空港の利用者等に対し、安心安全な輸送サービスを継続的に提供していく役割を担っています。

進化しつづける街、
【りんくう】がもっと身近に。

中部臨空都市には魅力あふれる商業施設などが相次いで進出しています。りんくう常滑駅北口を起点に商業施設が連なり、南口のホテルや飲食店、結婚式場等と相まって、駅前には相当な賑わいが生まれると見込まれており、空港線は、中部臨空都市への交通アクセスとして、その役割が増しつつあります。

空港線の概要

開業日	平成17年1月29日
事業区間	名鉄常滑線常滑駅～中部国際空港駅
営業キロ	4.2km（建設キロ4.3km）
構造	複線・高架・電化
規格	軌間：1,067mm 電圧：1,500V 電車編成長：最大160m（8両編成）
設計最高速度	130km/h
駅	りんくう常滑駅 中部国際空港駅

経緯

平成 4年 1月	運輸政策審議会第12号答申 新規路線として「中部新国際空港の検討に併せて高速鉄道によるアクセス線を検討する」
平成 9年 3月	中部新国際空港推進調整会議が「アクセス整備方策案」を公表
平成11年 2月	中部国際空港アクセス鉄道建設主体設立準備委員会設置
平成11年 6月	中部国際空港連絡鉄道株式会社設立
平成12年 4月	鉄道事業許可 第3種鉄道事業（中部国際空港連絡鉄道株） 第2種鉄道事業（名古屋鉄道株）
平成12年 9月	工事施工認可（土木関係）
平成13年 9月	工事施工認可（軌道・電気・建築関係）
平成17年 1月	開業

事業の目的

中部国際空港は、名古屋都心から約40km離れているため、空港までの交通アクセスとしては高速かつ定時性があり、環境への影響や航空機離発着時に集中的に発生する空港旅客需要の特性に対して、大量輸送処理が可能である交通手段が必要でした。その中で本鉄道アクセスは、上記の特徴を有する唯一の手段として、空港開港時（平成17年）に間に合うよう整備が進められました。また、鉄道アクセスの整備に当っては、需要規模や経済性等の面から検討を行い、既設の鉄道の中で空港に最も近接する名鉄常滑線を最大限活用することとして、その終点の常滑駅から中部国際空港との間に空港連絡線として建設されました。

建設・運営方式

中部国際空港連絡鉄道は、名鉄常滑駅から中部国際空港駅までの4.2kmをつなぐアクセス鉄道として、平成12年4月21日に中部国際空港連絡鉄道株が第三種鉄道事業の許可を、名古屋鉄道株が第二種鉄道事業の許可を運輸大臣（当時）より受け、平成13年1月から工事に着手しました。早期整備のためには多様な資金を確保するとともに、関係者間の迅速な意思の集約や利害の調整を図る必要があることから、第三セクター方式で事業化しました。

- 建設主体（第三種鉄道事業者）…中部国際空港連絡鉄道株式会社（第三セクター）
- 運営主体（第二種鉄道事業者）…名古屋鉄道株式会社

